

声明

「私たちには主権者として戦争を止めさせる責任がある」

ロシアはウクライナから即時撤退を

国内外の反戦の輪をひろげ、戦争をやめさせよう

2022年3月10日

NPO法人平塚らいてうの会

当会は、平和・協同・自然を愛し女性の自立を願って行動した平塚らいてうのころざしを現代に生かそうと日々活動しています。

らいてうは、日本国憲法9条に共鳴し、「非武装・非交戦」の立場から原水爆禁止、軍事基地反対、母親運動などをすすめ、「核兵器も戦争もない世界を」「ただ戦争だけが敵」「他者を受け入れ、意見が違ってても一致点で共同を」と訴え続けました。

去年は「らいてう没後50年」にあたり、私たちは同年1月に核兵器禁止条約が発効したことを喜び合うとともに、「今こそらいてうのころざしを生かすとき」と、決意を新たにしましたところ です。

今回のロシアによるウクライナ軍事侵攻は、戦後国際社会が築き上げてきた平和構築秩序に真っ向から反するものであり、当会は強く抗議し、ロシア軍の即時撤退を求めます。

いかなる理由をあげようとも、他国の主権を侵し、武力で子どもも含む市民を殺傷し、無数の避難民を生み出し、地球規模の壊滅的な被害をもたらす原発攻撃まで行い、核兵器使用の威嚇で世界を脅かすなど、断じて許されません。国連特別総会がロシア非難決議をあげ、ロシア市民を含む人々の抗議の声が世界中に広がっていることはまことに心強い思いです。

一方で、この事態を受けて、国連無力論、非武装の憲法9条で国は守れない、いわんや「核共有」論までが自民党や日本維新の会の政治家から流されていることはきわめて重大です。私たちは、この動きを決して許してはなりません。「武力行使」の禁止、紛争の平和解決、核兵器廃絶は、戦後政治の原点です。

「私たちには主権者として戦争を止めさせる責任がある」—らいてうのころざしを生かすことが、今まさに問われています。当会は、ロシア政府を包囲する国内外の反戦の輪に加わり、その連帯の輪を広げていくことを決意するものです。